

9年間を見通した教育課程に基づくふるさと教育の推進

厚真町立厚真中学校 学級数5 (校長 北尾 稔)

I はじめに

本町の教育振興基本計画における基本理念「ふるさとを愛し、未来に向かってたくましく生きる人材の育成」の実現に向け、厚真町の教育資源を活用し、学んだことを自己の生き方に反映するとともに、ふるさとに誇りをもつことができる教育活動を展開している。

本町のふるさと教育では、重点的に身に付けさせたい資質・能力を、「つなぐ力（人間関係形成・社会形成能力）」、「拓く力（課題解決能力・課題対応能力）」と設定し、9年間の小中一貫教育により「厚真の未来を語る子」を育成することを目指している。

II 実践の概要

1 厚真町のふるさと教育の目的及び重点

- (1) 体験的な学びを通し、ふるさとへの愛着と誇りの育成、学びに向かう力の育成
- (2) 探究的な学習から迫る、問題解決プロセスの理解、人間関係及び社会形成能力や表現力の育成
- (3) 教科横断的な学習の視点に立ち、教科等の枠組みを超えた資質・能力の育成

2 全体計画

平成31年度から、小中一貫教育の導入に合わせ、厚真中学校区と厚南中学校区のそれぞれにおいて、義務教育9年間の「ふるさと教育全体計画」の作成に着手した。令和2年度に本町の豊かな教育資源を活かし、9年間の系統性をもたせた、体験的、探究的、教科横断的な学習活動を展開する全体計画を完成させ、令和3年度から全体計画に基づいた取組を開始した。

厚真中学校区		ふるさと教育全体計画「われら厚真町PR大使！」			
	小1	小2	小3	小4	小5
目 標	厚真の自然や地域の歴史に親しむ中で、身近な生活に関わる住み・学び、生活を豊かにする資質・能力	厚真の自然や地域の歴史に親しむ中で、身近な生活に関わる住み・学び、生活を豊かにする資質・能力	厚真の自然や地域の歴史に親しむ中で、身近な生活に関わる住み・学び、生活を豊かにする資質・能力	厚真の自然や地域の歴史に親しむ中で、身近な生活に関わる住み・学び、生活を豊かにする資質・能力	厚真の自然や地域の歴史に親しむ中で、身近な生活に関わる住み・学び、生活を豊かにする資質・能力
テーマ	厚真の自然を知ろう	厚真の歴史を知ろう	厚真の産業を知ろう	厚真の文化を知ろう	厚真の未来を知ろう
内 容	自然学習調査 (学校近隣)	厚真の自然 (学校)	厚真の歴史 (学校)	厚真の産業 (学校)	厚真の文化 (学校)
厚真の誇り	厚真の自然	厚真の歴史	厚真の産業	厚真の文化	厚真の未来
育成したい資質能力 (詳細)	学び方	自己肯定感	自己肯定感	自己肯定感	自己肯定感
問いを見いだす	学校の周りにどんな自然があるのだろうか	厚真の自然がどんな自然なのか	厚真の歴史がどんな歴史なのか	厚真の産業がどんな産業なのか	厚真の文化がどんな文化なのか
体験的・体験内容	小学区近辺	散策	散策	散策	散策
課題を立てる	興味をもったこと	次に調べたいこと	次に調べたいこと	次に調べたいこと	次に調べたいこと
情報を集める	調べ学習 (調べ)	調べ学習 (調べ)	調べ学習 (調べ)	調べ学習 (調べ)	調べ学習 (調べ)

【9年間のふるさと教育全体計画】

3 厚真中学校の取組 ～Atsuma Pride Project～

本校では、令和2年度からふるさと教育の一環として、「地域を多面的に理解し、自ら課題を見出し、他者と協働して解決に取り組む」ことをねらいに、町内の特産品の魅力を動画にまとめ、SNSで発信する「Atsuma Pride Project」の活動に取り組んでいる。

第1学年から、マーケティング、取材、動画の撮影や編集等について段階的に学び、第3学年においてSNSで動画を発信し、ふるさと納税サイトを通じた特産品の販売を行っている。



【SNSのトップページ】

4 ふるさと教育推進コーディネーターによる支援

教育委員会に配属されたふるさと教育推進コーディネーターが、事業者への職業体験や取材の依頼、新規協力先の発掘等を学校に代わって行うことにより、学校・地域・教育委員会の連携強化が図られ、各学校における働き方改革を進めることができた。

5 成果(○)と課題(●)

- 地域の教育資源を最大限活用しながら取組を進めたことにより、生徒にふるさとへの愛着や誇り、学びに向かう力を育成することができた。
- 地域との持続可能な協働の基盤を確立し、本町ならではの特色を生かし、地域で子どもたちを育成するふるさと教育へとさらに改善していく必要がある。

地域人材を効果的に活用した観光教育の実践 ～ふるさとに愛着と誇りをもち、自信をもって表現する児童の育成～ 弟子屈町立川湯小学校 学級数6 (校長 上 中 義 人)

I 実践テーマの趣旨

本校は、阿寒・摩周国立公園の中に位置しており、硫黄山や摩周湖、屈斜路湖という大きな2つのカルデラ湖に囲まれるなど自然環境に恵まれている。

持続可能な観光地域づくりの気運が高まる本町において、豊かな自然環境や地域人材との出会いを中軸に据え、地域の課題を見付け、解決策を考える学習過程を通して、ふるさとのよさや魅力を再発見して誇りと愛着をもつとともに、課題解決能力や表現力を育成する、探究的な学習活動に取り組んだ。

II 実践の概要

1 観光を題材とした探究的な学習過程の構築

学習過程	主な学習活動
課題の設定	【ふるさとの特色と現状を知り、私たちにできることを考えよう】 ・他地域との比較等によるふるさとの特色の確認、近年の観光客数の現状の理解 ・課題「弟子屈再発見！～まちの魅力を発信しよう～」の設定
情報の収集	【ふるさとのよさや魅力を調査しよう】 ・「地域おこし協力隊」メンバー等へのインタビュー、見学・体験
整理・分析	【ふるさとのよさや魅力を分析しよう】 ・雑誌編集者からの助言を踏まえた、パンフレットで効果的に発信するための情報の整理・分析
まとめ・表現	【ふるさとのよさや魅力を発信しよう】 ・校内、修学旅行先（帯広市）での発信 ・三重県松阪市の小学校への発信（Web 会議システム）

2 地域人材の効果的な活用

「情報の収集」では、本町に移住し活躍する「地域おこし協力隊」のメンバー等を外部講師として活用し、「なぜ移住したのか」「どのような活動に取り組んでいるのか」についてインタビューしたり、見学・体験活動に取り組んだりすることにより、児童はふるさとのよさや魅力を再発見するとともに、発信に向けた意欲を高めた。

「整理・分析」「まとめ・表現」では、雑誌編集者を外部講師として活用し、ふるさとのよさや魅力を分析したり、目的や相手に応じた表現方法について助言を得たりすることにより、児童は効果的に発信するための知識や技能を習得し、思考、判断しながら、パンフレットを作成した。



【インタビュー、見学・体験活動の様子】



【修学旅行先の施設の方や遠方の小学生に発信する様子】



【講師の助言を踏まえて作成したパンフレット】

III 実践の成果と課題

- 探究の学習過程において地域人材を効果的に活用することにより、児童にふるさとへの愛着と誇り、地域の課題を解決する力を育むことができた。
- 複数回の表現する機会を意図的に設定し、ふるさとのよさや観光資源の魅力、自身の思いや考えが多くの方に伝わる喜びを実感させることにより、児童に表現力と自信を育むことができた。
- 観光教育の学習効果を一層高めるため、各教科等との関連を明確にした指導計画を構築する必要がある。